

珍しいツボダイの幼魚捕獲

京大水族館のデビュー待ち

県内で展示や捕獲記録がほとんどない非常に珍しいツボダイの幼魚(全長7センチ)が、白浜町臨海の番所崎で捕獲された。確認した京都大学瀬戸臨海実験所の田名瀬英明さん(63)は「めったに目にする事のない魚。頭部を負傷しており、元気になれば水族館で展示したい」と話している。捕獲したのは臨海実習で同実験所を訪れていた兵庫県立姫路飾西高校の1年生40人。19日、久保田信・助教(53)が講師を務め、番所崎先端で磯観察をしているとき、タイドプールで泳いでいるのを見つけた。久保田助教が「今まで見たことのない珍しい魚」と

持ち帰り、田名瀬さんがツボダイであることを確認した。同水族館では1978年に幼魚(全長12センチ)を展示したことはあるが、海南市船尾にある県立自然博物館や串本町有田の串本海中公園での展示例はないという。ツボダイの成魚は98年、すさみ町見老津の水深130メートルに仕掛けたはえ縄に4匹(20センチと23センチ)が掛かったことがある。

ツボダイは、本州中部以南、九州パラオ海嶺北部に分布。水深100〜400メートルの海底に生息。幼魚は体に不規則な雲状斑紋(はんもん)があり、表層にすむ。体長10センチ前後から海の底での生活に移る。このころには斑紋は消える。



番所崎で捕獲されたツボダイの幼魚
(23日、白浜町の京都大学瀬戸臨海実験所で)